

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

# おひさまだより

発行 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会 2010年3月 vol.20

## あさお自然エネルギー学校 第4回 施設見学会

実施:平成21年11月26日(8:00~17:00)

見学先:茨城県古河市積水ハウス(株)関東工場

見学施設:ゼロエミッションハウス・資源環境センター・住まいの夢工場等

### 目次

施設見学会	1
片平小出前授業	2
上麻生保育園出前授業	2
「おひさまだより20号」記念	3



自然エネルギー施設見学会は、一般参加者・実行委員・区役所地域振興課担当職員等計32名が参加して開催した。

当日は天候もよく、心配された大型バスでの移動途中、往路はやや渋滞したが、帰路は渋滞がほとんどなく、順調に移動することができた。沿道の眺望では、紅葉も美しかった。

積水ハウス(株)関東工場では、工場長の説明を聞いた後、下記の施設見学を行なった。

- ・ゼロエミッションハウス  
2008(H20)年北海道洞爺湖サミットで公開され、ここエミッションセンターに移築し、一般公開されている。新エネ・省エネ・環境技術などを組み合わせて快適な生活とCO<sub>2</sub>削減を図るエコロジーな平屋建て住宅
- ・資源環境センター  
家づくりで発生する建築廃棄物を収集して廃棄物を最大80品目に分別し、資源としてリサイクルを行い、CO<sub>2</sub>削減を目指す。
- ・住まい夢工場  
自然と住居が共生する種々の実物建物や各種実験装置を見学した。

一般参加者の感想(要旨)としては、

- ・太陽光・太陽熱の利用に関する最新情報は、これを利用する上で大変参考になった。
- ・資源環境センターでの細微な選別方法と利用方針は興味深く見学し、感動した。
- ・家屋の建設・設置時に省エネ・創エネを考慮した資材・部材を採用する必要があると感じた。
- ・バスで往復する段階での参加者の話・提言は楽しく参考になった。
- ・見学先が少し遠かった。一般参加者の意見・コメントを多くほしかった。

という意見もあり、これは反省点である。

( 瀬瀬正太郎 記 )

## 片平小学校出前授業

平成22年1月20日(木)

朝から真っ青な空、太陽がポカポカニコニコ!! 太陽に感謝!! 5年生120人が対象。準備を進める実行委員の手も軽やかです。

宮河委員の「地球が文明・文化の進歩により温暖化に至った経緯、その原因であるCO<sub>2</sub>を減らすために皆さんに何が出来るか考えて欲しい!」という挨拶で始まる。続いて岩田委員の映像による講義で、温暖化のメカニズムとその影響、そして化石燃料の石油は40年後には枯渇すると言われていることなど映像や表、写真を見せながら説明した。

そして、校庭へ移動。4グループに別れた体験学習。

ソーラークッカー  
ソーラーおもちゃ

パラボラアンテナ型のパネルに黒い鍋を乗せ、焼き芋、目玉焼き、ゆで卵を作った。ソーラーパネルで発電して、車を走らせたり、トンボやダンボ、シンバルをたたいたりサルなどのおもちゃを動かした。

おひさまボックス  
手回し発電機

ラジオを聴いたり、ビデオを動かしたり、イルミネーションを点灯させた。白熱灯、蛍光灯、LEDを自分でハンドルを回し電気を起こして点灯させ、同じ明るさにする為の消費エネルギーの違いを体験した。



そしてクイズ。最後に天野委員がまとめの感想を聞いてみた。子供達からは、テレビなどで見たことはあったが実際に見る事ができて良かった。「ソーラークッカーは作れるの?」という質問に、委員からオープンには難しいがソーラークッカーは「あさがお」という手作りのキットがあることを紹介した。太陽光だけで調理ができた、おもちゃを動かすことができることに感動したようでした。1人だけソーラーパネルを設置している家庭がありました。最近ソーラーパネルを利用した街灯、風力発電などを目にするが増えてきました。子供達も今回の授業をきっかけに、これらのことに興味を持ってくれるようになってくれるものと思いました。

(吉松 富壽子 記)

## 上麻生保育園出前授業

平成22年2月19日(金)

前日まで、雪が降ったり・積もったりと気温が低くて、とても寒い日が続きました。午後になってようやく、おひさまが顔を出しました。明日はお天気も良く、出前授業びよりを期待しました。

当日は、おひさまは雲の中を行ったり来たりで、顔をだしても弱々しい光でした。しかし園児たちの反応は元気いっぱい、お話をよく聞いてくれます。パネルシアターの合間にいろいろな言葉が飛び出して言葉のキャッチボールができるのです。

ソーラークッカーは何もできません。さてどうしたら良いものかと思案のすえ、「おひさま顔だしてねー」「元気になってねー」と皆でおひさまに呼びかける事にしました。みんな大きな声で叫んでくれたおかげで、不思議なことに一瞬光が強くなりました。ソーラークッカー担当の私たちが園児に励まされていたのです。隣の手回し発電機のコーナーをのぞくと一生懸命手回し発電機を回す子たちの姿がありました。

実行委員会の委員長が保育園の園児たちに「地球温暖化」と「自然エネルギー」のことを話してどの位、理解してくれるのかと心配でしたが、無用でした。

この日の出前授業で見たり聞いたり感じた事は、この子らの心の中にずっとずっと残るだろうと確信しました。大きくなった時、心の中に残った日の事がいろいろな所に生きていこうと思ったのです。



(宮河悦子・矢澤耕一 記)

## 特集 「おひさまだより 20号」を記念して

20号までの通過点に立って、これまでの各委員が学んできた事などを、市民の皆さんに呼びかけて、自然エネルギー活用への関心が一回り広がっていき事を願っています。

### 市民の発意がかたちになった委員会

地球温暖化の問題を自らの課題ととらえた市民が、自然エネルギーの普及活動で温暖化防止をめざすため提案し、2002年度に麻生区役所の屋上に太陽光パネルを設置していただきました。市民の発意が区役所の意向と合致した結果です。

その後、市民は様々なかたちで学習し、情報を集め、自ら日々の生活で実践し、学校など外部にも出向き、区役所と協働で活動を展開しています。この市民発意と協働、日々の実践は、この委員会のすばらしいところです。

私は「この委員会を誇りに思っている」といろいろの場所で発言していますが、8年前には何もありませんでした。志のあるところに形ができました。そしてこの間の活動の継続は、委員一人一人の熱意によるものです。委員である“市民”のみなさんは得意の分野があり、それぞれの実力が総体としての委員会を魅力あるものにしていきます。近年地球温暖化の実態が益々進行しており、のっぴきならない状態です。今後も力を合わせて共に地球温暖化に立ち向かいましょう。（飯田和子 記）

### 当実行委員会との出会い

私が当実行委員会に関わって7年がすぎた。出会いは講演会で「デンマークの風の学校」代表のステファン・ケンジ・スズキさんのお話を聞いたことに始まる。「私も何かしなければ」と深い感動を覚え、帰りに新百合ヶ丘駅へ歩いている氏を呼びとめ感動した旨をお伝えしたことを鮮明に覚えている。この時の講演録が「おひさまだより創刊号」に載っている。これをきっかけにおさそいを受けて入会した。

7年経って思うのは、大したことはできないが、区役所屋上の太陽光発電設備の見学会の説明役を引き受けたこと。そして多くの方々に自分の思いも含めて地球温暖化防止のお話ができ、またつながりができたことをうれしく思います。あと何年できるかわからないが、できることをやっていきたいと考えています。

（伊藤清美 記）

### 我が屋のリフォームでエネルギー・エコの実践

築30年近くになっていた事などの事情を考え、08年夏に我が家を2世帯住宅にリフォームしました。せっかく大々的なリフォームをするからには、時代の要請に応えたものにしようと考えて、エコ住宅に近づけようと試みました。近頃はエコ住宅といえはすぐ“オール電化”と宣伝されていますが、原子力発電の効率運用に載せられているような気がするのです。いろいろ調べて、これも企業の我田引水に乗せられる事承知の上で、納得してコジェネ-ガス発電（電気と熱の発生・利用）と太陽光発電の導入を計画しました。

家のエネルギーシステムを検討するに当たって、まず過去の電気・ガス（LPGで炊事・風呂追い炊き）・深夜電力（給湯）の月間利用量を相互比較できるようにするため、すべてkWh単位に換算してグラフに示して、良く眺め、春夏秋冬毎の標準エネルギー利用パターンを描いてみました。その結果分かった事はエコを実現するポイントは「熱エネルギー」をいかに効率よく発生させ・利用するかにかかるといことでした。それでコジェネ-ガス発電に至ったというわけです。

（吉田利教 記）

## 風と太陽

旅人の上着を脱がせのは太陽でした。  
でも、今は風も負けてはいません。  
だって、電気をおこせるんですから。  
森の小影で ドンジャラホイ  
遠い音は何度も聞いたのに今は聞こえない。  
私が大人になったから？  
それとも小人達、住みにくくなって引っ越したから？



会に入って、私は命の大切さを再認識しました。「自然エネルギー活用」は科学的な事なのですが、幼稚園程度の知識しかない私は、生命の源であるエネルギーを神話や童話等で著される妖精や妖怪の形で理解しています。神から知恵を授かった人間は宇宙一優れた生物ではなく、その中のほんの一部にすぎず、知恵はこの宇宙の営みのバランスを保つ為に役立つものと実感しています。

(小松原洋子 記)



## エネルギーの消費とわれわれの生活

太平洋戦争終結直後の日本では、エネルギーが極度に欠乏していた。資源の無い日本のエネルギー源といえば薪・木炭と国内産石炭と小規模水力発電くらいだった。一般的な家庭でのエネルギー源は薪・木炭と照明として電気が使用される程度で、ほかにはラジオが稀に電気扇風機・電気アイロンくらいだった。もちろん、電気洗濯機や電気冷蔵庫・テレビなどは無かったが、今では前記に続き、自動車・エアコン・カラーテレビ・オーディオ装置・などが一般家庭にも普及して、現在の便利で快適な生活が出来るようになり、また、エネルギーの消費も増大した。これに伴ってCO<sub>2</sub>の排出も急増してきている。これについてどう考えるか、CO<sub>2</sub>の排出削減25%を達成するためには、何年代まで遡った生活をこころがけるかが問われるところである。(纈纈正太郎 記)

## ナチュラルで・・・

私は、水路式発電所が4つもある町で生まれ育ちました。産業が発達すると発電施設は火力発電所に移り、水路式発電所の発電量はとても少なく、やがて無人化になりました。たくさんあった社宅もなくなり、多くの級友が転校していきました。ダムのように自然を破壊する事なく地形の段差を利用した水路式発電所は自然エネルギーの一つと思います。その様な事から長い事この委員会に携わっています。

マンションでの太陽光パネル導入を考えてみましたが、たくさんのお住居者の同意を得る事の難しさと設置費が高額であるとの問題に、建ってからの設置は困難である事を知らされました。エコマンションではないのですがエレベーターが利用に不便な所にあるので、階段を利用する人が多く、夏は周囲に雑木林がある為か涼風が家の中を通り抜けます。廊下側に設置された各戸のエアコンの室外機が作動しているのも数少なく、エコなマンションです。自分の暮らしの中に自然エネルギーを取り入れる事はまだまだできないのですが、地球温暖化防止のため自然エネルギーの普及啓発の活動をしばらく続けたいと思っています。

(宮河悦子 記)

## 委員会活動に参加して

川崎都民も卒業し、さあこれからどうしようと考えていたとき麻生市民館のチラシで「定年退職者セミナー」で地域デビューした。

地域の事に関心が出てきた矢先に川崎市の「地域環境リ・ダ・育成講座」を学んでいた時の仲間に、この講座の課程が修了したら次は「麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会」(長くて難しそう)の活動に参加して下さいねと言われ、何がなんだかよく分らないまま、1年が過ぎました。

麻生区の一市民としてまだまだ「自然エネルギー」の何たるかは語れませんが、「化石燃料過度依存」から多様な「自然エネルギー」の活用を勉強し、素晴らしい先輩や仲間と囲まれ、毎月第一水曜日の午前中区役所で張り切っています。

(友政一幸 記)

## 人類の夢を実現

自然エネルギーといえば、太陽光、風力、水力、バイオマス・雪や雨や雷・・・私たちの周りには無尽蔵にあります。この自然のエネルギーを有効活用出来たら、環境汚染や資源の枯渇の心配も無くなり、人類の夢平和を実現出来ます。持続再生可能社会が実現できます。私たちはその実現のために、ほんのチョッピリ担ってきました。今後も更に深め、広げて、全人類の平和のためにトライしたい。8年目も足元の一步から踏み出したい。

(矢澤耕一 記)

## 鶴見川沿いの素敵な家

私は、エコ生活を楽しんでいる方をご紹介します。飯田浩司（74）さんです。手先の器用さと物を作る楽しさが一致した方といえましょうか。

小田急線鶴川駅を降りて、鶴見川沿いを行くと、いろいろなおもちゃが展示されている家があります。それが飯田さんのお宅です。何が面白かって？ それは、実物を楽しんでもらわなくては、わかりませんね。といわけて次の写真を見てください。



どれも太陽電池で動いています。そして屋根には、これまた立派な太陽光電池がぎっしりのついています。昼間の電気は売って、安い夜間電気（23：00～7：00）を多く使っているとのこと。お話をうかがっていると、話題が尽きません。皆さんも、飯田さんを訪ねてみてはいかがでしょうか。ただし、飯田さんがいらっしゃるのは土曜と日曜だけです。（河野順子 記）



## 編集後記

8年間に、「おひさまだより」も20号を発行することができました。この間「あさお自然エネルギー学校」などを通じて皆さんからのご意見など伺いながら、自然エネルギー活用の促進を計って来ました。各委員から皆さんへのメッセージを受け止めて頂き、地球温暖化防止のためには、たくさんの皆さんのご協力が何よりも大切との認識を共有して下さい、さらに協働が加速されますよう願っています。ご質問や叱咤ご感想などお待ちしております。（児嶋脩 記）

発行	: 麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会（委員長 飯田和子）
編集担当	: 児嶋・瀬瀬・河野・樋口
問い合わせ先	: 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1 Tel044-965-5116 Fax 044-965-5201
発行日	: 2010年 3月4日